

# シラバス作成要領



National Hospital Organization  
Hokkaido Medical Center Sapporo Nursing School

独立行政法人国立病院機構北海道医療センター附属札幌看護学校

---

## 1. シラバスについて

シラバスとは、講義などの内容や進め方を示す計画書です。このシラバスは教員と学生の契約の役割をしており、シラバスに記載されている内容が講義で展開されます。

シラバスに記載している内容は、①科目区分、②授業科目、③講師名、④実務経験の有無、⑤単位数（時間）、⑥開講時期、⑦授業目的と目標、⑧講義内容と割り当て、⑨講義方法、⑩評価方法、⑪使用テキスト・参考テキスト、⑫備考、から構成されています。①～⑫の内容を明示することで学生自身は講義の履修を決める際の資料として授業準備が行えたり、評価認定に関係することを理解できます。また、講義においては教員間での講義の関連を確認して客観的な講義と評価がなされます。

本校では、「学生による授業評価」においても、シラバス活用の視点を取り入れています。

## 2. シラバス作成（記載は【記載例】を参考にしてください）

### 1) 講師名

講義をしていただく先生の名前を記載します。

### 2) 実務経験の有無

実務経験のある講師（教員）とは、企業や非営利団体、行政、医療や法曹の現場などにおいて、自身が担当する授業科目に関わる実務に従事した経験を持つ講師を指します。具体的には、高校以下の教員、官公庁、民間企業、医療職全般などです。

また、実務経験のある教員が直接の担当でなくとも、インターンシップや実習等を授業の中心に位置づけして、講義内容が主に実践的教育から構成されている授業内容でも実務経験の有無は「有」となります。その他に、有期・無期、常勤・非常勤の別は問いません。これらの点をふまえて実務経験の欄に「有」または「無」のいずれかを記載してください。

### 3) 授業目的と目標

授業終了時点で学生に到達してほしい目標を意識して授業目的と授業目標を記述します。目標は目的を反映し、複数の目的に含まれる内容が混在しないように1つずつ目標を記述してください。

また、表現は「〇〇できる」、「〇〇が説明できる」、「〇〇が実施できる」といった動詞表現で記述してください。

#### 4) 講義概要 (講師からのメッセージ)

学生が、①授業でどのようなことを、②どんな経験をしている講師から学ぶのか、③学ぶことにどんな意義があるのかがわかるように講義概要を記載して下さい。

#### 5) 講義内容と割り当て

単位は、15 時間から 30 時間で1 単位、臨地実習は 45 時間をもって1 単位となっています。

講義時間は、講義・演習・実技については 45 分をもって1 単位時間とし、臨地実習については 60 分をもって1 単位時間とします。本校の講義においては1 回 90 分 (2 単位時間) を1 コマとして回に「1 回」、2 コマ目を「2 回」とシラバスに表記します。

回数ごとに講義内容に記載をしてください。

主講師により複数の講師に講義を振り分けて行われる場合、回の下に担当する全ての講師名を記載してください。

#### 【記載例 (複数講師の場合)】

回	時間	講義内容
1 藤井	2	1. 医療安全と看護の理念 1) 医療安全の意味とその重要性 (1) 医療安全の動向、(2) 医療安全の対象、 2) 看護職の法的規定と医療安全 (1) 看護倫理と医療安全、(2) 看護師の法的規定、 (3) 看護業務の変遷と安全管理 (4) 看護行為における行政処分と再教育
2 田中	2	2. 医療安全への取り組みと医療の質の評価 1) 医療安全への取り組み 2) 医療事故の定義と分類 3) 医療事故の報告制度 4) 医療の質の評価
3 . . .	2	. . .

#### 6) 講義方法

講義方法は「講義」、「演習」、「ロールプレイング」、「グループワーク」、「臨地実習」など講義内容と一貫した講義方法を記載して下さい。

## 7) 評価方法

評価方法は、「客観的テスト」「レポート提出」「実技テスト」「出席状況」「演習参加度」「授業態度」「グループ/発表成果」などあります。科目評価をどのような方法で行い、点数割合はどの程度かを(％、点など)表記する必要があります。以下の表記例を参考に評価方法を記載してください。

例1	筆記試験 100% (または、筆記試験 100 点)
例2	筆記試験 70% 課題およびレポート 30% (テーマ学習振り返り 15%、課題レポート 15%)
例3	筆記試験 (85%) 授業への取り組みを毎回の授業終了時点での自由記載レポートで評価 (5%)。 課題レポートの提出状況と内容を評価 (10%)。
例4	筆記試験 (60%) 実技テスト・口述試験 (20%×2回)

評価は、学則第18条(授業科目の評価及び単位習得の認定)より、各科目(おおむね15～30時間)終了時に評価を行うことになっています。また、授業科目成績の評価は100点法とし、60点以上をもって単位認定となります。

成績が単位認定(合格点)に達しなかった者については、学則細則第5条による「再試験」を行います。

## 8) 使用テキスト・参考テキスト

テキストの変更が必要な場合は2月末までに早めにお知らせください。

シラバス表記は、下図のように「出版社：テキストタイトル」の順で記載して下さい。尚、テキストを使用しない場合は「なし」と記載してください。

テキスト	出版社：テキストスタイル
------	--------------

## 9) 備考欄の記載について

備考欄には、①既習関連科目、②予習・復習の具体的内容、③必要物品などを必要な内容がありましたら記載してください。

特記がない場合は「特記なし」と記載してください。

### 3. シラバスチェックについて

シラバスの見直しは適宜行います。

講師が講義に来ている時期にシラバス内容の追加修正の確認を各学年のカリキュラム担当教員が致します。

【記載例】

科目区分	専門分野 I	授業科目	看護研究
講師名	〇〇 〇〇	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)	開講年次	1 年次 第 2 学期
講義概要 *講師からのメッセージ	私は統計学や研究について学んだ実績を活かし、看護における研究の意義や楽しさを学生の皆さんに伝えたいと思います。また、多くの研究報告がなされていますが、その研究を読む力を身につけ、自らの看護実践に活かしていけるような力も養いたたいと思っています。		
目的：看護を行うにあたり研究的な視点で科学的、理論的におこなっていくことの必要性を理解する			
目標： 1. 看護研究の目的と意義が理解できる 2. 看護研究の基礎が理解できる			
回	時間	講義内容	
1, 2	4	1. 研究とは何か、看護における研究とは何か 2. 文献とは何か 1) 文献検索の実際 (一次文献、二次文献) 2) 自分の興味のある内容を検索してみよう	
3~5	6	4. 様々な研究手法と実際 1) 量的なデータを扱う アンケート作成 (演習) 統計法 (エクセルを用いた分析の演習 : 記述統計、パラメトリック検定、分散分析など) 2) 質的なデータを扱う 3) ケーススタディ	
6	2	5. 効果的な発表とは (プレゼンテーション) 1) スティーブ・ジョブズから学ぶ伝わる発表とは 2) 院内ケーススタディ発表会への参加と振り返り	
7	2	6. 論文を読んでみよう 過去の研究論文を読み、看護における研究成果を知る	
8	1	終了試験	
講義方法	講義 (Web 検索演習)、統計処理手法、グループワーク		
評価方法	・筆記試験 (80 点満点 45 分) ・文献検索でまとめたレポート 10 点、 ・院内ケーススタディに参加して学んだこと 10 点		
テキスト	医学書院：黒田裕子の看護研究 Step by Step		
備考	既習関連科目：看護学概論、診療の補助技術、日常生活援助技術 第 3～5 回目の講義は情報処理室を使用します		

## 4. 授業評価について

本校では「学生による授業評価」を取り入れています。授業評価は講師自身の授業の振り返り、改善に向けた形成的評価であると同時に学生の学習者としての姿勢を身につけられるものとしています。よって、構成要素は「授業内容について」、「授業の進め方について」、「学生の反応について」、「総合評価」となっています。配布時期は、適正に評価を得ること、学生の自らの学習姿勢を振り返ってもらうために、授業から間隔があかない時期とし、基本的には授業終了日に配付して、翌日の朝にバイアスを考慮して回収させていただきます。

評価表は以下の 23 項目から構成され、(非常に当てはまる) (かなり当てはまる) (大体当てはまる) (あまり当てはまらない) (全く当てはまらない) の 5 件法となっています。

- Q1 授業の目標を明確に提示した
- Q2 授業目標と授業内容を一致するように準備した
- Q3 学生の理解を促進するように授業内容を準備した
- Q4 授業内容は、不足や重複なく、順序立てて整理した
- Q5 授業に関連する研究結果や最新の情報などの検索をおこなった
- Q6 事例や体験談を取り込み学生に興味や関心をもたせる授業ができた
- Q7 授業の進む速さは適切であった。
- Q8 聞き取りやすいように大きな声で明瞭な話し方をするようにした
- Q9 視聴覚器材の利用は効果的であった
- Q10 板書(又はパワーポイント)は、文字を読みやすく書いた
- Q11 ノートを取るための時間は丁度であった
- Q12 参考文献、配布資料等の教材を効果的に活用した
- Q13 学生の反応や理解を確認しながら授業を進めた
- Q14 一方的な授業ではなく、学生に質問や発言を促すようにした
- Q15 授業を熱意・意欲を持って取り組んだ
- Q16 学生が意見や質問をしやすい雰囲気作りをした
- Q17 学生は予習・復習・課題をきちんとしてきていた
- Q18 授業中は私語や居眠りは見られなかった
- Q19 学生は集中して授業を聞いていた(ノートをとる)
- Q20 学生は、授業中の質問に対して積極的に答えてくれた
- Q21 学生から質問や声かけが多くされた
- Q22 学生が満足できる授業ができた
- Q23 学生の意見や考えを取り入れるようにした